黒木賢一先生のご退職に寄せて

大阪経済大学人間科学部長　福　井　孝　明

人間科学部の歴史を創ってこられた先人達がまた一人ご退職される。大学院人間科学研究科を名実ともに牽引してこられた名匠がいなくなる。その抜けた跡は，我々の想像以上に大きいに違いない。

黒木先生が大阪経済大学にご着任されたのは平成14年４月，ちょうど大阪経済大学では教養部を改組して，新たに人間科学部を設立したときだった。それまで経済，経営，情報しかなかった社会科学系大学に初めて人文系学部を立ち上げることなった。まさにその目玉教員として，それまで教育機関とは無縁で民間の心療所を営んでおられた黒木先生に白羽の矢が立ったのだった。

船出した新学部は，嵐の中を進む小舟のように，大揺れに揺れていた。全国的に日本の大学を襲った教養部改組の波は，大阪経済大学には一番遅れてやって来た。学部の中では旧教養部から在籍する教員と，新学部設置とともに赴任した教員とで，立場の大きな隔たりがあった。

黒木先生は，着任前からの煩雑な申請書類の作成に続き，わずかな教員だけで専門課程教育を担わなければならなかった。専門教育担当者のほうが少ないという変な「専門」学部のスタートであった。

そんな状況下，あるとき遂に黒木先生の堪忍袋の緒が切れたことがある。ある教員の授業が，その年度の開始から開講されないという状態に陥っていた。すでに授業期間が始まる中で代講者を立てようとしたが，ある教授から反対の発言があり，審議が止まってしまった。

そのときだった。黒木先生がスッと立ち上がり，声を大にして教授会の教員すべてに訴えられた。「我々にとって一番大事なのは学生じゃないですか！　学生ファーストで考えませんか？」。議場内はざわついたが，結局その授業は代講を立てることで決着がついた。黒木先生の勇気ある発言が功を奏したといえる。小さな体の先生が非常に偉大に見えた瞬間だった。

今だから言えるが，黒木先生のもとには何度か他大学から引き抜きの誘いがあった。ドロ船から逃げ出す教員もいた中で，黒木先生はこの船を立派で頑丈な鉄の船にしようと，他の誘いなど断って奮闘されたのだった。

学生運動の余波が残る日本の大学。黒木先生は桃山学院大学社会学部を昭和50年3月に卒業されて，しばらくアパレル会社に勤務される。しかし，間もなく心理学を学ぶために職を辞されて単身アメリカに渡られ，カリフォルニア州立大学ヘイワード校心理学研究科修士課程で臨床カウンセリングを学ばれた。帰国されてからはカウンセラーとして昭和60年に大阪心理療法センター「高石クリニック」で心理士として勤務される。さらに昭和62年9月から兵庫県芦屋市に当時はまだ日本では数少なかった心療所「芦屋心療オフィス」を立ち上げられ，現在まで所長として大勢の患者を診てこられた。

それから間もなく本学の教員として誘われて赴任，さらに休む間もなく黒木先生は平成18年度からの大学院設置に奔走された。予めシンクタンクと相談を重ねていたにもかかわらず，申請は予想外の出来事の連続で，何度もやり直しを余儀なくされた。そんな苦労の末に出来たのが，大学院人間科学研究科である。

黒木先生が中心である臨床心理学専攻は毎回受験生もたくさん集まり，多くの修了生がカウンセラーとしていまや関西を中心に活躍する組織となっている。黒木先生ご自身はその後も平成18年4月から現在まで二年間を除く期間のすべてで人間科学研究科付属の心理臨床センター長を務められた。また平成22年4月から三年間，大学院人間科学研究科長に就任し，大学院教育の発展に寄与された。このほか，平成23年から本学法人評議員を二期務められるなど，大学全体の発展にも非常に注力されている。

このように大学の役職に忙しい期間にも関わらず，黒木先生は精力的に研究を重ね続けてこられたことは尊敬に値する。トランスパーソナル心理学をご専門とし，平成8年には単著『＜自分発見＞ワークブック』（洋泉社）を上梓。また平成18年には『＜気＞の心理臨床入門』（星和書店）も出されている。また最近では，『マンダラ・アートセラピー』（平成29年，創元社）をまとめられ，さらには目下執筆中の『お遍路セラピー』まで一貫してトランスパーソナル心理学の立場で研究を進められている。

このほか，全国的な偉業として記録すべきは，平成元年，かの河合隼雄氏とともに，日本臨床心理士会設立の発起人になられていることであろう。さらに平成5年には兵庫県の臨床心理士会の設立にも尽力されている。

黒木先生たちのおかげで臨床心理士の資格制度そのものが設置され，こんにちのように発展してきていることは特筆に値する。さらに本学でも次年度から国家資格の「公認心理師」制度がスタートするまでに至った。このことに関しても，黒木先生の喜びは一入だと思う。

こうして長い教員生活を終えられる黒木先生の残された願いは，人間科学部に心理学科を設置することである。すでに専門性の高いコース制度設置までなんとか漕ぎつけたが，それを完成させるため，さらに独立性の高い学科制を実施することが念願の課題である。これまでずっと「学生が一番」をポリシーに考えて行動してこられた先生ならではの希望である。我々はこの課題を引き継いで，ぜひとも実現させたいと考える。

これからも何かの局面においてお知恵を貸していただくとともに，黒木先生の今後ますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。